

阿南市における文書調査

地方史班（徳島地方史研究会）

徳野 隆^{1*} 宇山 孝人¹ 大柴せつ子¹ 金原 祐樹¹ 須藤 茂樹¹ 高田 恵二¹
 田中 裕子¹ 町田 哲¹ 宮本 和宏¹ 松永 友和¹ 高田 美穂² 伊丹 啓人²
 花原 慧史² 堀井 貴史²

要旨：阿南市立阿波公方・民俗資料館所蔵の守野家文書・池内家文書古文書調査を行い、一部目録作成と撮影・翻刻を行った。また、阿南市役所羽ノ浦支所（旧羽ノ浦町役場）の調査を行い、明治10年代から昭和10年代までの議会関係公文書の目録作成と一部撮影を行った。

キーワード：守野為五郎 軍人送迎規約 戸長役場文書 村（町）議会関係公文書

1. はじめに

1) 地域の歴史の変遷

現在の阿南市域は旧那賀郡（寛文4年・1664までは那東郡・那西郡）平野部の大半を占めている。中世には竹原荘・大野本荘・大野新荘・牛牧荘・阿良田野荘・福井荘・桑野御厨・桑野保・那賀山荘・平島荘・坂野新荘などの荘園が成立し、牛岐城・大野城・桑野城・中庄城・岩脇城などの中世城館の存在が知られている。京都を逐われた室町幕府第10代将軍足利義種の子義冬は天文3年（1534）に平島荘に迎えられた。その子孫は平島公方と呼ばれ、文化2年（1805）に阿波を離れるまで「貴種」としての独特の存在となっていた。

蜂須賀入国後、富岡（牛岐）城は「阿波九城」のひとつとして拡充されたが、寛永15年（1638）に廃城となった。その後も富岡は阿波国南方の政治・経済・文化の拠点となり、明治3年（1870）には南民政掛役所が、同12年（1879）には那賀郡役所が置かれている。

明治22年（1889）の町村制施行により成立した富岡・宝田・長生・中野島・加茂谷・見能林・桑野・

新野・福井・椿・大野・橋浦の各村が、その後合併を繰り返して昭和33年（1958）に阿南市が成立。同じく明治22年に成立した今津浦（大正10年に今津と改称）・平島の両村が昭和31年（1956）に合併して那賀川町が成立。明治22年に成立した羽ノ浦村は大正7年（1918）に町制を施行。平成18年（2006）に（旧）阿南市・那賀川町羽ノ浦町が合併して現在の阿南市が成立した。

2) 調査の方針

平成25年度には阿南市史編さん室及び阿南市立阿波公方・民俗資料館（以下、民俗資料館）所蔵の古文書調査を行い、目録作成及び一部史料の撮影を行った。平成26年度には阿南市役所羽ノ浦支所（旧羽ノ浦町役場、以下旧町役場）所蔵の歴史公文書の調査を行い、目録作成と一部史料の撮影を行った。今回は民俗資料館所蔵守野家文書、同池内家文書、及び羽ノ浦村（町）旧役場歴史公文書について報告をする。

1 徳島地方史研究会員 2 鳴門教育大学大学院生

* 770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立文書館 088-668-3700

2. 阿南市立阿波公方・民俗資料館所蔵 古文書について

1) 守野家文書について

^{もりのためごろう}守野為五郎（嘉永4年・1851～明治39年・1906）は那賀郡大京原村出身の政治家である。地元の戸長や那賀郡書記科長などを歴任し、明治14年（1881）に県会議員となり、同23年の第1回衆議院議員選挙に徳島県第2区から出馬して当選。3回連続当選した後、地盤を羽ノ浦出身の板東勘五郎に譲って政界を引退した。当初は立憲改進黨に所属していたが、後に立場の違いから離党している。この間、明治24年（1891）の天津事件に際しては帝国議會議員代表としてロシア皇太子を見舞い、内政面では「田島地価修正法」公布に尽力した。また、北海道開拓事業にも熱心に取り組んでいる。

資料館が所蔵している守野家文書には、守野為五郎関係の近代史料が存在しているが、今回はこれらの中から、明治23年（1890）10月18日付けの守野為五郎あての招待状を以下に翻刻する。

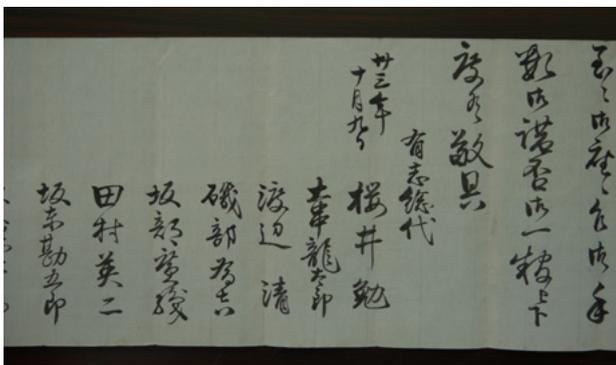


写真1 守野為五郎宛招待状（部分）

国会開期漸次切迫ニ付テハ不日御上京被下候儀ニ可有之、向寒之際別シテ御苦勞之次第ニ有之候、就テハ来ル十月十八日正午ヨリ徳島滴翠閣ニ於テ聊別杯ヲ呈シ度候、幸ニシテ御臨場被下候得者本懐之至ニ御座候、乍御手数御諾否御一報被下度候、敬具

有志総代

廿三年

十月九日

桜井勉

大串龍太郎

渡辺清

磯部為吉

坂部広織
田村英二
坂（板）東勘五郎
大久保弁太郎
吉原正剛
新開貢
西沢兵太郎
益田永武
水間綱夫
野口邦次郎
中川重内
武市新一
川真田市太郎
林五朗
阿部猪馬三郎
井形八郎

守野為五郎殿

（翻刻者が適宜句読点を補正し、漢字を常用漢字に変更 以下、同じ）

第1回帝国議会の開会を約一ヶ月後にひかえ、東京に出発する守野の送別会（激励会）が徳島市の滴翠閣（現徳島市中央公園にあった施設）で開催されたことがわかる。有志総代の桜井勉は当時の徳島県知事。以下、大串龍太郎・田村英二・益田永武・川真田市太郎ら当時の徳島県政財界の大立者が名を連ねている。この送別会（激励会）が守野単独のものなのか他の当選者との合同のものなのかは不明であるが、明治期の県政界の一場面を物語る史料といえる。

2) 池内家文書について

^{くろじ}那賀郡黒地村出身の池内基一は明治期に民権運動にかかわり、その『回顧録』は本県における民権運動研究の基礎資料のひとつとなっている。民俗資料館所蔵の池内家文書については、その目

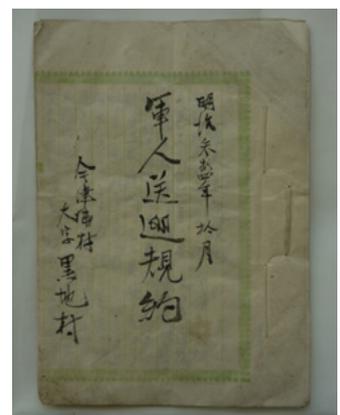


写真2 軍人送迎規約（表紙）

録を表1として掲載したので参照いただきたい。

ここでは、その中から明治中期の入営兵士見送りに関する興味深い事例を示す次の史料を紹介したい。

(表紙)

明治参拾四年拾月

軍人送迎規約

今津浦村

大字黒地村

(本文)

軍人送迎規約

近来新兵入営ニ当リテハ、親戚・朋友及村民互ニ送別・留別等ノ宴ヲ張り、或ハ旗幟ヲ贈リ其数ノ多キヲ競ヒ、又ハ、現役満期・帰郷ニ対スル出迎ヲ始メ、土産ト称シテ物品ヲ贈ル等一般ノ慣例トナレリ、是レ全ク其行ヲ壯ニスルノ意ニ外ナラストイエトモ、斯クテハ双方之費用少ナカラスノミナラス、為メニ種々ノ弊害ヲ醸スノ虞アリ、加之、軍人待遇ハ最モ厳肅ニ且精神的ナラザル可カラス、因テ本村居住者ハ従来ノ風習ヲ一洗シ、将来質素ヲ旨トシ、左ノ各項ニ依リ送迎スルコトヲ規約スルモノナリ

一当大字村内ニ入営兵アルトキハ旗一流ヲ寄贈シ、又、見送り当日ハ村内便宜ノ場所ニ集合シ祝杯ヲ挙ケ、村境又ハ便宜ノ場所マテ見送ルモノトス

但、旗及祝杯費等ハ左ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ス

金壹円以下 壱人分旗調整費

金貳円五拾銭以下 壱回分祝杯費

金五拾銭以下 壱回分雑費

一前項ニ要スル費用ハ、当大字村居住者ヨリ一戸金三銭以上五銭以下ノ範囲内ニテ出金スルモノトス、但シ同時ニ入営者アル時ハ旗調整費嵩ムニヨリ、範囲ヨリ超過スル事モアルベシ

一前項寄贈品ノ調整及び集金等ハ、当大字村居住ノ兵務世話役ニ於テ、其時々便宜世話掛リヲ人選囑託シ、之レニ取扱ハシムルモノトス

一当大字居住ノ兵務世話役ハ、新兵入営ニ付諸事協議アル場合、并ニ此ノ條項追加削除、又ハ出金額ヲ定ムル等ノ節ハ、従来当大字村ノ慣行ニヨリ、祭事ニ関スル当頭ト唱フル人々ノ協議ヲ得テ実行

スルモノトス

一入営者ノ家ニ在リテハ、見送り人ニ酒肴ノ饗応ハ一切禁スルモノトス、但シ親戚・朋友ノ間ニ於テ送留別ノ宴ヲ成サント欲スル場合モ、成ルベク盛宴ヲ張ラザルモノトス一現役満期帰郷者ハ土産ト称シ贈品ヲナスヲ廢スルモノトス

当大字黒地村居住者ハ、前記規約ノ項々確守スルタメ、左ニ記名調印スルモノナリ

明治参拾四年拾月七日

那賀郡今津浦村大字黒地村

宮崎精一 印

代仁木喜久太

鈴木喜久太郎 印

(中略)

渡部太郎次 印

藪内兼太郎 印

変更

一前三項ノ寄贈品調整及集金等総テノ世話役ハ、其年祭事ニ関スル当頭ノ担当スルモノトス

明治参拾五年八月

明治30年代なかばの段階で入営する兵士の送別や兵役満期による帰郷者の出迎えが派手になり、これが黒地村内でも問題化していたようである。そこで、送別・出迎えを簡素にし、経費は村民からの集金をもってあてること、その事務担当は祭事の世話役との連携のもとに行われることなどが決定し、全住民の署名・押印がなされている。

この決定を受けて、各戸毎の集金額を書き上げた「入営兵寄贈ノ旗及諸費戸別一回分出金額定メ」という帳簿が「軍人送迎規約」と合綴がつてつされている。これによると合計72人から4円24銭を集金することになっており、最高額は池内基一ら2名の15銭、最低は2銭で、申し合わせの趣旨からも出費の平準化がはかられていたことがわかる。兵士を送り出す在地の状況を示す興味深い資料といえる。

3. 阿南市役所羽ノ浦支所(旧羽ノ浦町役場)所蔵の歴史公文書について

今回の調査では、旧町役場書類庫に保管されてい

た議会関係を中心とする明治16年（1883）から昭和19年（1944）までの歴史公文書67簿冊の存在を確認し、表2のようになった。これらの公文書は段ボール箱に入れられて書類庫の棚に収納されていた。目録作成に当たっては収納状況をもとにした仮番号を付した上で、整理者による大まかな分類を行った。以下、その概要について説明したい。

明治11年（1878）、それまでの大区小区制度が廃止されて郡区町村編成法が出された。これにより町村が行政区画として復活し、各町村に戸長と戸長役場がおかれた。小さな村では数ヶ村が組み合わせられて戸長役場が置かれていたが、明治17年（1884）に法改正が行われ、数町村に一つの連合戸長役場が設置されることになり、明治22年（1889）に町村制施行まで地方行政組織の役割を担ってきた。

阿南市の旧羽ノ浦地区では、明治11年に近世村落の系譜を引く^{なかのしやう みやぐら いわわき こもろ ふるしやう}中庄・宮倉・岩脇・古毛・古庄の5ヶ村が行政区画として復活し、明治22年にこれらが合併して羽ノ浦村となった。旧役場には明治16年（1883）から同22年までの戸長役場時代の村会関係簿冊12点が残されている。これらを見る限り、行政区画としての5ヶ村は中庄・宮倉と岩脇・古毛・古庄がそれぞれ連合を組んでいたことがうかがわれるが、これは小学校の校区などの形で現在まで継承されている。また、合併をひかえた明治22年の5ヶ村連合村会関係簿冊が5点残されており、公有財産

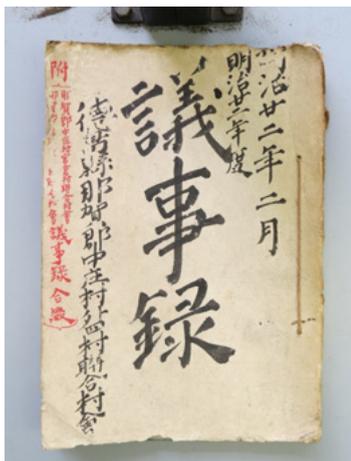


写真3 明治22年中庄村外4村連合村会議事録（表紙）

の移管その他を巡って活発な議論がなされていたことがわかる。

明治22年に成立した羽ノ浦村は大正7年（1918）に町制を施行。その後、平成18年（2006）に阿南市と合併するまで、他町村との合併を行うことはなかった。旧役場書庫には村（町）議会の明治22年から大正15年（昭和元年・1926）までと昭和19年（1944）の議案書、明治22年から昭和4年（1929）までの議事録、明治22年から大正14年（1925）までの決議書が、一部の欠けはあるもののほぼそろっている。また、羽ノ浦村成立以前の5ヶ村それぞれに「区会」が存在しており、残存状況にバラツキはあるものの、明治24年（1891）から大正末年までの議案書・議事録・決議書が残っている。これらには、当該年度の村（町）の概要や予算、役場が推進する重要施策などに関する参考資料が綴じ込まれており、これだけでも当時の村（町）の概況を知ることが出来る。

いずれにしても、これら旧役場旧蔵の議会関係歴史公文書は、羽ノ浦地区の近代史を研究する上での欠かすことのできない貴重な史料群であることは間違いない。

4. おわりに

以上、今回の阿南市における文書調査の成果の一端を紹介したが、地域にとっての貴重な歴史遺産であるこれらの史料の活用方法を模索することがこれからの課題であろう。なお、今回の調査に際して史料の調査をご承諾いただき、さまざまな便宜をいただいた阿南市史編さん室、阿波公方・民俗資料館、阿南市役所羽ノ浦支所に対して御礼を申し上げます。

文献

- 阿南市史編さん委員会（1987～2012）：『阿南市史』1～5巻
阿南市教育委員会
那賀川町史編さん委員会（2002）：『那賀川町史』上下巻 那賀川町
羽ノ浦町誌委員会（1994～98）：『羽ノ浦町誌』 羽ノ浦町

Reserch of documents in Anann City, Tokushima, Japan

TOKUNO Takashi*, UYAMA Takahito, OOSHIBA Setsuko, KINBARA Hiroki, SUDOU Shigeki, TAKATA Keizi, TANAKA Hiroko, MACHIDA Tetsu, MIYAMOTO Kazuhiro, MATSUNAGA Tomokazu, TAKATA Miho, ITAMI Hiroto, HANABARA Satoshi, HORII Takashi.

* Tokushima Prefectural Archives, Mukaiterayama Hachiman-cho, Tokushima 770-8070, JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No.60 (2015), pp.139-146.

表1 阿波公方・民俗資料館所蔵池内家文書目録

史料番号	標題	作成年月日	西暦	作成者	宛者	備考
池-1	今津浦村大字黒地村(小作地調べ)					
池-2	卒業証書	昭和14年3月20日	1939	徳島県立徳島高等女学校長 正六位 西村虎之助	池内五鈴	汚損あり
池-3	地所き番受金子借用之証	明治18年12月6日	1885	那賀郡黒地村 藤田兼太郎	同郡同村(那賀郡黒地村) 内内次郎 外3名	奥書あり
池-4	馬舌頭預り証	明治35年7月8日	1902	那賀郡津浦村大字黒地村 近藤頼二	同郡同村(那賀郡今津浦村) 池内基一	
池-5	建物書入之証	明治10丑年2月21日	1877	阿波国第九大区那賀郡第一小 区坂野村478番地居住 吉岡 甚吉 外1名	同郡(那賀郡)第六小区 池内 鶴太郎	奥書あり 付紙あり
池-6	雄牛預り之証書			川島三郎		
池-7	請金借用書	明治40年1月	1907	那賀郡今津浦郡 借主 菱垣 新七 外1名	大字黒地郡 池内基一	
池-8-1	軍人送迎規約	明治34年10月7日	1901	那賀郡今津浦村黒地村 宮崎 精一 外71名		綴 池-8-1と2は合綴
池-8-2	入営兵二寄贈ノ旗及諸務個別一回分出金額定メ	明治34年10月7月3日	1901	村上俊太郎 外7名		綴 池-8-1と2は合綴
池-9	(書簡)			徳島県那賀郡今津浦村役場	池内	
池-10	封筒			京都市高倉通竹屋町下ル 稲 井甫	池内基一	中身無し 上部破損 証書在中とあり
池-11-1	稲井甫(書簡・林様より預かりの品の件)	(?)10年9月21日		京都市高倉通竹屋町下ル 稲 井甫	阿波国那賀郡今津村黒地 池 内基一	
池-11-2	稲井甫(書簡・林様より預かりの品の件)	(?)10年10月22日		京都市高倉通竹屋町下ル 稲 井甫	阿波国那賀郡今津村黒地 池 内基一	
池-11-3	稲井甫(書簡・預かりの品入札市に出すか否かの件)	(?)11年3月2日		京都市高倉通竹屋町下ル 稲 井甫	阿波国那賀郡今津村黒地 池 内基一	
池-11-4	稲井甫(書簡・預かりの品買い手あり、金350円封中の件)	(?)11年4月7日		京都市高倉通竹屋町下ル 稲 井甫	徳島市富田織町2丁目 林正 二 池内基一	書留
池-11-5	稲井甫(書簡・長次郎茶碗等預けの品物の取り戻しは出来ない件)	(?)11年4月12日		京都市高倉通竹屋町下ル 稲 井甫	徳島市富田織町2丁目 林正 二 池内基一	稲井宛の池内書簡下書き1点同封
池-11-6	稲井甫(書簡・軸物及び道具類売り払いの件)	(?)11年4月10日		京都市高倉通竹屋町下ル 稲 井甫	徳島市富田織町2丁目 林正 二 池内基一	書簡下書き1点 道具類書付1点同封
池-11-7	(仁清水指ほか道具類及び金額書き上げ)					堅帳 道具類及び金額書き上げ1点同封
池-12	(朱印帳)					表紙無し
池-13	大煙火打揚番付	昭和10年5月19日	1935	全国産業組合大会長野市協賛会 池内貞		印刷物
池-14	補綴					堅帳 布景本
池-15	二十五年以上勤続者芳名	昭和11年3月15日	1936	日本新聞協会		印刷物 昭和12年2月15日調べ
池-16	最新大京都市街地図 いちは引町名早見	明治11年7月6日	1878	大阪市 駿々堂旅行案内部		折り目一部破損
池-17	小学入門便覧					印刷物
池-18	(写真一括)					家族写真等 多くが昭和23年撮影 徳島 県那賀郡今津村池内顯吉写真集とあり
池-19	(集合写真)					女子校記念写真か
池-20	(朱印帳)					表紙破損あり
池-21	作文必携 普通文章自在巻下	明治10年4月27日	1877	志貴瑞芳		刊本 徳島県阿波国那賀郡芳崎村仁米 太郎所持とあり
池-22	(スクラップブック)	(昭和13年)	1938			昭和13年度徳島県女子師範学校・徳島 県立高等女学校の鮮満修学旅行の記念 写真や絵葉書が貼付
池-23	(集合写真)					小学校記念写真か 台紙付き 尋四・池内 サガノとあり
池-24	地図集	(昭和17年2月7日)	1942			ノート 新聞記事の貼り付けあり
池-25	改正増補 物理階梯	明治9年8月5日	1876	片山淳吉		刊本
池-26	改正増補 物理階梯	明治9年9月	1876			刊本 題箋なし
池-27	(手習帳)					堅帳
池-28	(手習本)			仁木円蔵		堅帳
池-29	(手習本)					堅帳

史料番号	標題	作成年月日	西暦	作成者	宛者	備考
池-30	(手習本)			芳崎村 仁木		竪帳 破損
池-31	文章(手習本)					表紙のみ 大きく欠損 仁木米太郎との記載あり
池-32	御通	昭和41年7月	1966		多田	
池-33	御通	(昭和)41年6月	1966		多田	
池-34	北條早雲肖像画			岡精一		印刷物
池-35	泰三郎軍服(写真台紙)	大正10年1月1日	1921	香川県善通寺町 福井写真館		写真無し
池-36	(朝顔 水彩画)			柳塘		
池-37	(濯 水彩画)			松隠		
池-38	(御雛 水彩画)			松隠		
池-39	(烏に笹 水彩画)					
池-40	(端切れ)					
池-41	金子借用之証	明治15年1月16日	1882	那賀郡黒地村 借主 大西源次郎	黒地村 池内基一	外金子借用証14通合綴 池-41~79は「借用証関係」と記した封筒に一括
池-42-1	小作米未納二付約定証	明治24年11月	1891	那賀郡今津浦村大字黒地村 川野国蔵 外1名	那賀郡今津浦村大字黒地村 池内基一	池-42-1~4は一括
池-42-2	小作米未納二付約定証	明治24年12月4日	1891	那賀郡今津浦村大字黒地村 宮田繁蔵	池内基一	
池-42-3	小作米未納二付約定証	明治23年7月	1890	那賀郡今津浦村大字黒地村 宮田繁蔵	那賀郡今津浦村大字黒地村 池内基一	
池-42-4	小作米未納二付約定証	明治24年11月	1891	那賀郡今津浦村大字黒地村 大田牧蔵 外1名	那賀郡今津浦村大字黒地村 池内基一	
池-43	金子借用之証	明治24年3月2日	1891	寺本徳真	池内基一	
池-44	地所売戻し可申義二付約定仕渡証	明治19年1月11日	1886	池内基一	星野邦治	綴
池-45	金子借用之証	明治32年6月1日	1899	福良■一郎	池内基一	
池-46	小作米未納二付約定証	明治35年3月9日	1902	十川豊吉	池内基一	
池-47	第七百廿五番(土地書き上げ)					断簡
池-48	返り証返し戻しにつき済口書	明治24年2月8日	1891	那賀郡今津浦村大字黒地村 吉岡宇平 外1名	同郡同村大字同村(那賀郡今津浦村大字黒地村) 池内基一	
池-49	証(返り証返し戻しにつき済口書)	明治24年2月10日	1891	那賀郡今津浦村大字今津浦村 73番屋敷 藤田岩吉	同郡同村(那賀郡今津浦村)大字黒地村 池内基一	
池-50	藤田岩太(書簡・債務の件)	明治24年4月23日	1891	大字今津浦村 藤田岩太	池内基一	封筒あり
池-51	金子借用証文之事	明治16年11月24日	1883	阿波国那賀郡黒地村 吉岡宇二郎	黒地村 池内基一	
池-52	証(地租改正入費のため借用の件)	明治10丑年6月10日	1877	小延邨地租惣代 三好与六 外3名	黒地村 池内麟太郎	
池-53	居宅書入金子借用証	明治10丑年12月	1877	黒地邨 荒木利喜蔵	同邨(黒地村) 池内麟太郎	奥書あり
池-54	借用証文御届	明治14年巳4月22日	1881	那賀郡黒地村 借主 吉岡定一郎	池内麟太郎	
池-55	金子借用証	明治15年1月15年午9月	1882	那賀郡黒地邨 借主 富永林蔵	同郡同村(那賀郡黒地村) 池内基一	
池-56	借用証	明治9子年12月3日	1876	那賀郡第二小区黒地村 宮田浦蔵	同村(黒地村) 池内麟太郎	
池-57	証(当村在来及び共有墓籍受負金領取につき)	明治31年11月26日	1898	勝浦郡小松島村大字中郷村 粕谷仲意	惣代 池内基一 鈴木種太郎	
池-58	借用之証	明治35年旧3月4日	1902	那賀郡大字黒地村 川田定五郎	同郡同村(那賀郡大字黒地村) 池内基一	
池-59	預り証	明治22年7月19日	1889	那賀郡江野島村 滝馬次郎	同郡(那賀郡)黒地村 池内基一 外1名	
池-60	牛売渡之証書			川島喜三郎		
池-61	米借用証	明治22年3月30日	1889	那賀郡中庄村 富塚長蔵	那賀郡黒地村 池内基一	
池-62	小作米夏米納二付約定証	明治24年2月	1891	那賀郡今津浦村大字黒地村 奥田八十松	同郡同村同大字(那賀郡今津浦村)大字黒地村 池内基一	
池-63	小作米夏米納二付約定証	明治24年2月	1891	那賀郡今津浦村大字黒地村 宮田繁蔵	同郡同村(那賀郡今津浦村)大字黒地村 池内基一	

史料番号	標題	作成年月日	西暦	作成者	宛者	備考
池一64	金子請取証	明治18年1月6日	1885	那賀郡黒地村 板東要吉 外1名	同郡同村(那賀郡黒地村) 鈴木太郎 外3名	鈴
池一65	金子請取証	明治21年2月3日	1888	那賀郡黒地村 美田貞五郎 外1名	黒地村惣代 鈴木太郎	
池一66	金借用証	明治22年5月	1889	那賀郡八幡村 前川式太郎	那賀郡黒地村 池内	
池一67	借用証	明治14年2月15日	1881	今津浦村 真島庄八	黒地村 池内基一	
池一68	借用証文袋 効力ヲ失ス(封筒)				封筒のみ	
池一69	小作米不足二付約束之証	明治34年6月26日	1901	那賀郡今津浦村大字黒地村 川島善三郎	池内基一	
池一70	金子借用之証	明治17年6月9日	1884	川島初蔵	池内基一	
池一71	借用之証	8月1日		福良■一郎	池内基吉	
池一72	小作米未納二付約定証	明治23年7月	1890	那賀郡今津浦村大字黒地村 大田棟蔵	同郡同村同大字(那賀郡今津浦村大字黒地村) 池内基一	
池一73	証(当村共有墓地の設置に付き私出金分の納入の証)	明治21年2月2日	1888	黒地村 吉岡■吉	黒地村共有墓地惣代	
池一74	金子借用証	明治18年1月8日	1885	那賀郡黒地村 村上国松	池内基一	
池一75	証	明治21年2月2日	1888	黒地村 杉原彦太郎		
池一76	共有墓地買請代金割賦出金約定証	(明治期か)		那賀郡黒地村 村上国蔵 外2名		
池一77	証	明治21年2月2日	1888			
池一78	証	明治21年2月2日	1888	黒地村 岡田喜久三郎		
池一79	(小作米米表動定帳)				横帳 綴じ紐はずれ	

表2 旧羽ノ浦町役場所蔵歴史公文書目録

分類	No.	標題	備考	版番号
連合村会	1-1	明治十六年一月 一村会学事会決議 那賀郡岩脇村	1-1~7は「一村会書類」として綴一括	58-2-1
連合村会	1-2	明治十九年度分 連合村会議決議 内裏書類編冊 徳島県那賀郡岩脇村・古毛村・古庄村役所	1-1~7は「一村会書類」として綴一括	58-2-1
連合村会	1-3	明治十九年度分 連合村会議決議 内裏書類編冊 那賀郡岩脇村外二村役所	1-1~7は「一村会書類」として綴一括	58-2-1
連合村会	1-4	明治十七年度 連合村会議決議及議決 内裏書類編冊 岩脇村外二村役所	1-1~7は「一村会書類」として綴一括	58-2-1
連合村会	1-5	明治十七年度 一村会議長開申書指合控編冊 岩脇村・古毛村・古庄村役所	1-1~7は「一村会書類」として綴一括	58-2-1
連合村会	1-6	明治十八年度 連合村会議決議書類編冊 那賀郡岩脇村外二村役所	1-1~7は「一村会書類」として綴一括	58-2-1
連合村会	1-7	明治十九年度 連合村会議決議書類編冊 那賀郡岩脇村外二村役所	1-1~7は「一村会書類」として綴一括	58-2-1
連合村会	2	明治貳拾貳年貳月 議事簿 那賀郡中庄村外四村連合村会		57-2-7
連合村会	3	明治貳拾貳年貳月 議事簿 徳島県那賀郡中庄村外四村連合村会 附、那賀郡中庄村・宮倉村連合村会・那賀郡岩脇村外二村連合村会 議事録		57-2-6
連合村会	4	明治貳拾年二月 決議指令綴 那賀郡中庄村分四村連合村会		57-2-1
連合村会	5	明治廿二年二月 明治廿二年度協議会決議 那賀郡中庄村外四村役所		57-2-5
連合村会	6	明治廿二年二月 明治廿二年度 中庄村外四村連合村会指令回議簿 那賀郡中庄村外四村役所 附夕夕、古庄・岩脇・古毛・一村会共		57-2-16
村会議案	1	自明治二十二年 至同二十三年 村会議案		57-3-1
村会議案	2	自明治二十九年 至同三十四年 村会議案		57-3-2
村会議案	3	自明治四十四年 至大正二年 議案 羽ノ浦村会		58-2-3
村会議案	4	自大正三年 至十四年 議案 羽ノ浦町会		58-2-5
村会議案	5	大正五年 議案 那賀郡羽ノ浦町会		58-2-7
村会議案	6	昭和十九年度 議案綴 羽ノ浦町		57-3-5
村会議事録	1	自明治二十二年 至同二十八年 村会議事録		58-1-1
村会議事録	2	自明治廿九年 至同三十五年 村会議事録		58-1-2
村会議事録	3	自明治三十六年 至同四十二年 村会議事録		58-1-3
村会議事録	4	自明治四十四年 至大正二年 議事録 那賀郡羽ノ浦村会		58-1-4
村会議事録	5	自大正三年 至同四年 議事録 羽ノ浦町役場		58-3-1
村会議事録	6	自大正五年 至昭和四年 議事録 羽ノ浦町役場		58-2-3
村会決議	1	自明治廿八年 村会決議		58-1-5
村会決議	2	自明治廿九年 至明治三十四年 村会決議		58-2-2
村会決議	3	自明治三十五年 至同三十八年 村会決議		58-1-6
村会決議	4	自明治三十九年 至四十二年 村会決議		58-1-7
村会決議	5	自明治四十四年 至大正二年 議事簿 那賀郡羽ノ浦村会		57-3-3
村会決議	6	(自大正三年) 至大正四年 決議書 那賀郡羽ノ浦村会	背表紙を中心に羽ノ浦町行政課の貼り紙あり	58-3-2
村会決議	7	(自大正五年) 至大正六年 決議書 那賀郡羽ノ浦村会		58-3-3

No.	分類	標題	備考	仮番号
8	村会決議	自大正七年度 至大正八年度 決議書 羽ノ浦町会		58-3-4
9	村会決議	自大正九年度 至大正十年度 決議書 那賀郡羽ノ浦町会		58-3-5
10	村会決議	自大正十一年度 至大正十一年度 決議書 那賀郡羽ノ浦町会		58-2-4
11	村会決議	自大正十三年度 至大正十四年度 決議書 羽ノ浦町会		58-2-6
12	村会決議	昭和拾四年 決議書 羽ノ浦町役場		57-3-4
	村会その他	自大正七年度 至大正十二年 議事二開スル書類		58-3-6
	宮倉	1 自明治廿四年度 至明治四十四年度 宮倉区会議事録		57-3-7
	宮倉	2 自明治二十四年度 至同四十四年度 宮倉区会議事録		57-3-6
	宮倉	3 自明治廿四年度 至同四十四年度 宮倉区会議案		57-3-8
	中庄	1 自明治二十四年度 至同四十四年度 中庄区会議案		57-3-12
	中庄	2 自明治二十四年度 至同四十四年度 中庄区会議事録		57-2-11
	中庄	3 自明治二十四年度 至同四十四年度 大正十二年 議事録 那賀郡羽ノ浦村大字中庄村区会		57-2-9
	中庄	4 自明治廿四年度 至明治四十四年度 中庄区会議案		57-2-10
	中庄	5 自明治四十四年度 至大正十四年度 決議書 那賀郡羽ノ浦村大字中庄村区会		57-2-8
	岩脇	1 自明治廿四年度 至同四十四年度 岩脇区会議案		57-2-13
	岩脇	2 自明治四十四年度 至同四十四年度 議案 那賀郡羽ノ浦村大字岩脇村区会		57-3-10
	岩脇	3 自明治二十四年度 至同四十四年度 岩脇区会議事録		57-2-14
	岩脇	4 自明治四十四年度 至同四十四年度 議事録 那賀郡羽ノ浦村大字岩脇村区会		57-2-12
	岩脇	5 自明治廿四年度 至明治四十四年度 岩脇区会議案		57-2-15
	岩脇	6 自明治廿四年度 至同四十四年度 決議書 那賀郡羽ノ浦村大字岩脇村区会		57-3-11
	古毛	1 自明治廿四年度 至同四十四年度 古毛区会議事録		57-2-19
	古毛	2 自明治四十四年度 至同四十四年度 議事録 那賀郡羽ノ浦村大字古毛村区会		57-3-9
	古毛	3 自明治廿四年度 至同四十四年度 古毛区会議案		57-2-18
	古毛	4 自明治四十四年度 至同四十四年度 決議書 那賀郡羽ノ浦村大字古毛区会		58-1-8
	古庄	1 自明治二十四年度 至同四十四年度 古庄区会議事録		57-2-3
	古庄	2 自明治四十四年度 至同四十四年度 古庄区会議案		57-2-2
	古庄	3 自明治廿四年度 至同四十四年度 古庄区会議案		57-2-4
	その他	1-1 明治廿六年五月改正 職員名簿 那賀郡羽ノ浦村役場	明治41年まで 1-1と1-2は合綴	57-1-1
	その他	1-2 明治十九年四月 村吏及教員・議員・醫師・調師・神官等 那賀郡中庄村外四村役所	1-1と1-2は合綴	57-1-2
	その他	2 大正七年七月改正 褒賞者名簿 第三号 徳島県那賀郡羽ノ浦村役場		57-1-3
	その他	3 大正七年七月改正 褒賞者名簿 第三号 徳島県那賀郡羽ノ浦村役場		57-1-4
	その他	4 大正七年七月改正 褒賞者名簿 第三号 徳島県那賀郡羽ノ浦村役場		57-1-5
	その他	5 国勢調査二開スル書類 那賀郡羽ノ浦町役場		58-3-7
	その他	6 国勢調査二開スル書類 那賀郡羽ノ浦町役場	大正9年～11年 大正14年	58-3-8
	その他	7 自明治四十四年度 至 議事録 那賀郡万代堤下広瀬普通水利組合	昭和26年迄	58-1-9